

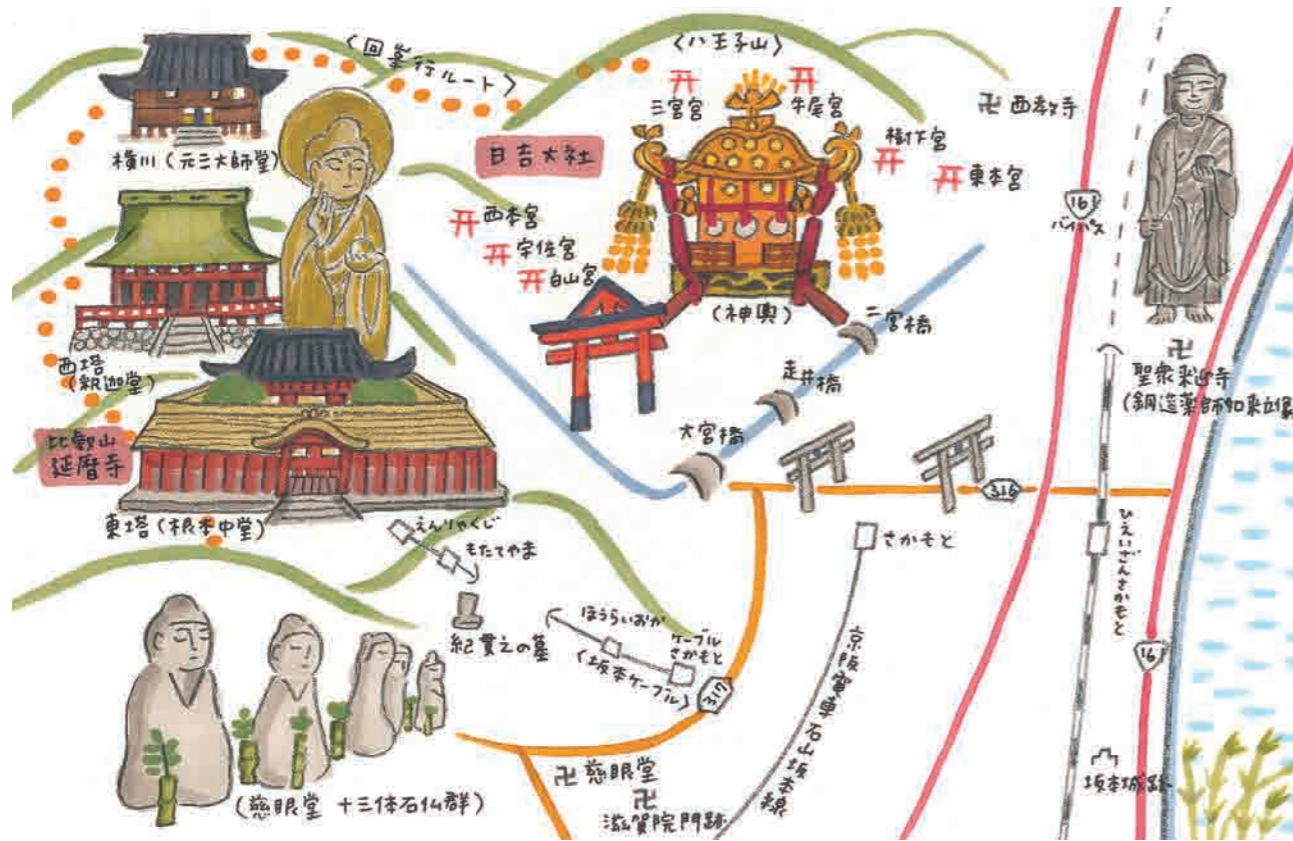
周辺のみどころ

三塔と呼ばれる東塔・西塔・横川の巡拝がオススメだ。根本中堂や国宝殿があるのは東塔であるが、西塔や横川地区にも優れた文化財が多く、それぞれの歴史と信仰を反映した特色がある。

山麓の日吉大社（大津市坂本五丁目）は比叡山の守護神として延暦寺と一体の信仰を集めた山王総本宮だ。坂本・下阪本地域には天台真盛宗総本山の西教寺、近江の正倉院とも呼ばれる聖衆来迎寺など、天台文化を知る上で大切な歴史遺産が実に多い。



日吉大社牛尾神社・三宮神社



【アクセス】

- 京阪電鉄坂本駅下車徒歩10分またはJR比叡山坂本駅からタクシーで約8分で比叡山鉄道ケーブル坂本駅へ。ケーブルに乗り延暦寺駅下車。

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 延暦寺執行局編『比叡山延暦寺—その歴史と文化を訪ねて—』比叡山延暦寺
- 渡辺守順『比叡山延暦寺』吉川弘文館
- 安岡章太郎・菅田玄昭『古寺巡礼京都26 延暦寺』淡文社
- 東京国立博物館・京都国立博物館編『最澄と天台の国宝』(特別展図録)
- 武覚超『比叡山諸堂史の研究』法蔵館

延 暦 寺

大津市坂本本町

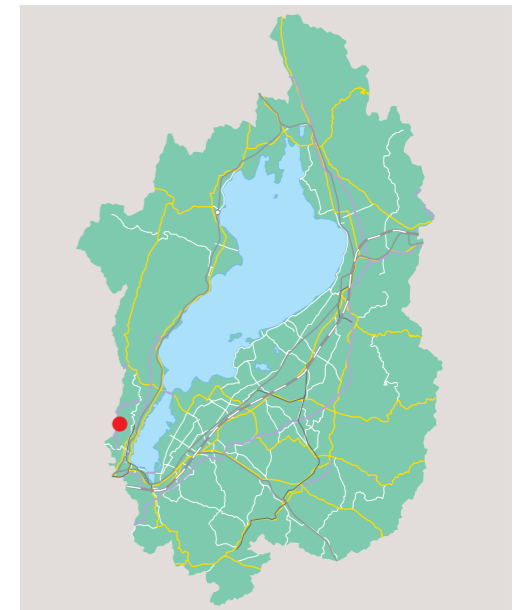


延暦寺浄土院最澄御廟

日本仏教の母なる「お山」、比叡山。延暦7年(788)、伝教大師最澄が自ら刻んだ薬師如来像(根本薬師)を本尊とした一乗止観院の建立に始まる。薬師如来は瑠璃光如来とも呼ばれ、青く輝く水の世界の教主として東方浄土に居ますという。比叡山の東には美しい水をたたえた琵琶湖があり、延暦寺は薬師浄土を観相する最適の場所であった。

平安末期の『梁塵秘抄』にも、「近江の湖は海ならず、天台薬師の池ぞかし」とある。琵琶湖を根本薬師の宝池に見立て、近江国が天台の教えに守られ、水の恵みあふれる楽園、理想郷だと讃えたのである。

根本薬師は国宝延暦寺根本中堂の内陣厨子に秘仏として安置され、不滅の法灯とともに、最澄の理想と信仰を伝え、「水の浄土・琵琶湖」を見守り続ける。





「天台薬師の池」 延暦寺からの琵琶湖遠望

延暦寺

所在地 大津市坂本本町

建造物

伝教大師最澄が自刻の薬師如来像を安置した「一乗止観院」の後身が、根本中堂である。当初は薬師如来を本尊とする仏堂の左右に経蔵と文殊堂を建てた3棟の構成であったが、仁和3年(887)に3棟を1堂にまとめた大堂に改築されたという。元亀2年(1571)、織田信長による比叡山焼討でほぼ全山の堂塔とともに、総本堂である根本中堂も灰燼に帰した。

現在の国宝根本中堂は徳川家光の命により再建され、寛永17年(1640)に完成した。屋根は入母屋造、瓦棒銅板葺き。正面37.6m、側面23.9m、高さ24.3m、県下最大の木造建築である。内陣は石敷きの土間であるのが特徴で、正面に秘仏木造薬師如来立像(「根本薬師」)、南に伝教大師、北に毘沙門天を祀る各厨子が、高い基壇を築いて安置されている。山内には他にも、重要文化財の戒壇院や相輪椽、県指定文化財の大講堂など多くの文化財

建造物がある。ほとんどが焼討以降に再建されたものだが、園城寺から移築された西塔の転法輪堂(重要文化財)、および瑠璃堂(重要文化財)は比叡山に現存する貴重な中世建築である。

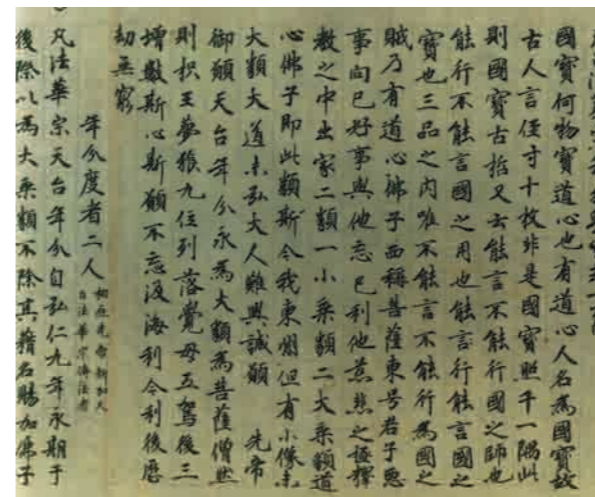
美術工芸品

延暦寺根本中堂の本尊・木造薬師如来立像是最澄自刻の伝承をもつ「根本薬師」として知られ、秘仏として厨子内に安置される。高さ2尺ほどの立像で、もとは美濃国の横蔵寺の本尊であった。織田信長による比叡山焼討の後、天正13年(1585)に最澄自刻の分身像として知られる横蔵寺像を迎えて旧尊に替えたのだという。秘仏のため、拝観することはできない。

延暦寺の広大な境内は、東塔・西塔・横川の「三塔」と呼ばれるブロックに分かれている。その三塔諸堂や山麓の里坊などから多くの文化財が集められて国宝殿に安置され、広く一



重要文化財木造維摩居士坐像



般に公開されている。西谷山王院伝来と伝える木造千手観音立像(重要文化財)は9世紀の作で、比叡山の仏像では最も古い。小像ながら大ぶりの目鼻立ちを深く彫り込み、しご立つ衣文の表現などに古様さがある。国宝殿には他にも、かつて「根本薬師」の厨子の周りを守護するように安置されていた木造四天王立像(重要文化財)、釈迦堂伝来の木造四天王立像(重要文化財)、青龍寺伝来の木造維摩居士坐像(重要文化財)など、多くの尊像が安置されていて、一山の堂塔のひとつとして管理公開されている。

なお、国宝殿安置の文化財として外すこ



重要文化財木造千手観音立像

国宝天台法華宗年分縁起
最澄の自筆本で「国宝とは何物ぞ。宝とは道心なり。」の名文が見える。

とができない至宝が、最澄自筆の天台法華宗年分縁起(国宝)、伝教大師将来目録(国宝)など、伝教大師関係文書である。とくに天台法華宗年分縁起には、「山家学生式」として著名な『天台法華宗年分学生式(六条式)』の自筆本を含んでいる。純粋な大乘仏教を伝えるための僧侶(菩薩僧)を養成する方法について規定したもの。「国宝とは何物ぞ、宝とは道心なり」で始まる格調高い文章である。美しく整った字体、隅々まで丁寧にかかれた筆運びなどに、筆者最澄の高潔かつ慈しみ深い人柄がしのばれる。